

「水戸黄門」に学ぶ

夏休みの宿題で、うちの子の作品(書道)が表彰を受けました。少し前まで字の書き方を見てあげていたと思っていたら、いつの間にか私より書道が上手になっていたのです。

そう思ってよく見ると、それは書道だけの話ではなく、私の出来ないピアノや英語もいつの間にか出来るようになっていきました。どうしてこんなになってしまったのでしょうか？

子供達だって、週にたった一度習っているだけなのに、それを積み重ねると驚くほど大きな差になるものです。それに比べて私は「英語を話せるようになりたい」「ピアノを弾けるようになりたい」と思うばかりで、「忙しい」と言っては結局何もしていないのです。本当に親は忙しくて、子供達は暇なのではないのでしょうか？

私達大人は、自分の都合で生活し、自分の都合で判断出来るので、子供より自分を納得させる「出来ない理由」が作りやすいのかもしれませんが。心の中では「子供は大人と違って上達が速いんだ」と言いたいのですが、私の母も子供達と一緒に書道に通っていて上達しているの、悔しいのですがそれは言えないのです。

私はいつの間にか、母よりも精神的に歳を取り、自分に対する希望も弱くなって来ていたのかもしれませんが。

先日、電車に乗っていると、今時の格好をした女の子が、単語カードを取り出して熱心に暗記をしていました。本当に「偉いな」と思いました。結局は、こうした小さな努力の積み重ねなのでしょう。

水戸黄門の歌に「後から来たのに追い越され、泣くのがいやらさあ歩け」という歌詞がありました。グズグズ言っているだけでも仕方ありません。待っていても、一日24時間が、25時間になる訳はないのですから、何かを得ようと思ったら、何かを止めなくてはなりません。そうした犠牲を払わずに、「ああなりたい」「こうなりたい」と思っているのは全くムシの良い話です。

誰も大きな時間を取ることは、難しいことだと思います。そうになると、結局は小さな時間を活かすかどうか、差をつけていくのだとつくづく思いました。

分相応

最近ではクレジットなどの普及により、今の自分の力以上の生活(豊かさ)を先取りすることが出来るようになりました。しかし、「便利になる」ということは、車のスピードが早くなるようなもので、それだけ運転技術が必要になるようです。そのため、つい分不相応な生活をして、カード破産をする人も増えているようです。

そんな中、時々「子供が欲しいものがあると親を脅かす」と言っているところに相談に来られる方がいますが、私達は子供に対して愛情のつもりで、安易に「物」や「サービス」を与え過ぎて来たのかもしれませんが。

愛情を「物」や「サービス」でしか与えられない人は、とても不幸ですが、楽で、楽しく、豊かな生活を、努力なしに与えられた子供達も、とても不幸だと思います。もし私の子供が、私の言うことを聞かなければ、私は子供に出で行ってもらうと思います。

アパートを借りるのにも家賃が必要のように、たとえ家族であっても、一緒に生活するためには、家賃が必要だと思うのです。それは決して「お金を払え」と言うのではなく、笑顔で挨拶をするとか、してもらったことに「ありがとう」と言うとか、食器を片付けるといった参加の仕方(家賃)が必要だと思うのです。

今、世の中全体がローンまでして、豊かさの先取りをしている気がします。たとえそれで一時的に幸せになったとしても、分不相応な生活は、いつか必ず破綻すると思います。私自身、もう一度自分の生活を見つめ直したいと思います。

運を良くする

私にとっては、自分が会社を経営したり、全国でお話しをさせてもらえるようになるなんて、全く考えもしなかった人生です。決して「成功」したとは思っていませんが、結婚したころとの生活の変化に、夫婦で「どうしてこうなったのだろう？」と話をすることがあります。

もしそのコツがわかれば凄い発見だと思うのですが、妻に言わせると、結局「あなたは運が良かったのよ」だそうです。

確かに、私は努力家ではありませんし、人とも上手に付き合える方ではないと思います。でも、今の状態が「運」によって支えられているとしたら、いつ「運」が悪くなって大変なことになるかもしれません。

どうしたら「運」が良くなり続けるのでしょうか？ また、どうしたら「運」は悪くなるのでしょうか？

明治の文豪「幸田露伴」は、運について「惜福」「分福」「植福」と言っています。

「惜福」とは、権利があっても、自分の枠(運)をすべて使いつ果さないこと。「分福」とは、自分の良いこと(運)を、自分一人で独占するのではなく、他の人にも分け与えること。そして「植福」とは、将来のために、新しい良い運の種を、手をかけて植えていくことだそうです。

私がそのようなことをしてきた訳ではありませんが、私なりに、

- 1、私は欲が深いので、欲をかき過ぎないようにすること。
- 2、良いことは長く続かないので、悪くなったときの準備を早めしておくこと。
- 3、悪い時には、しょげたり、バタバタしないで、しっかり目を開けて、チャンスが来るまで耐えること。
- 4、うまい話、ズルそうな人、格好をつける人、威張る人とは、付き合わないこと。
- 5、一つの大きな力より、小さな力を大切にすること。

というようなことを意識してきた気がします。しかし、何と言っても一番のポイントは、「人が好きだ」ということだと思います。振り返って見ると、神様は、いつも思いもかけない人に姿を変えて、良い運を与えてくれたと思うのです。

あなたは、「福の神」を見逃してはいませんか？

思いもかけない人の振りをして、今、あなたの近くにいるかもしれませんよ！

今月の活動情報

お問い合わせはお電話で...

日程	内容	主催者・会場
9 / 1 (金)	「建設的な生き方」	(カノボーリング)
9 / 2~3	経営塾	(オリジン)
9 / 6 (水)	東部家庭教育相談員養成講座	(東部総合庁舎)
9 / 13 (水)	山梨CL勉強会	(山中湖安心サービス)
9 / 22 (金)	「心のキャッチボール」	(伊目幼稚園)
9 / 26 (火)	「素敵な子供を育てる」	(静岡市立長田南小学校)
9 / 28 (木)	「親としての心構え」	(アイセル21)
9 / 29 (金)	「心の教育」	(藤枝市立青島北小学校)

「赤は、止まれ。青は、進め。それでは黄色は？」

小学校一年生に上の質問をしたところ、あるクラスで36人中3人が「急げ」という答えを選んだそうです。子供達は、私達の行動をよく見ているようです。

先日、ある中学校でトイレ掃除をさせてもらいました。学校から先生方やPTA、生徒さん達に参加を呼びかけて頂いたところ、お休みなのに24名の三年生が、自主的にトイレ掃除に参加してくれました。

きっと先生方やご父兄の皆さんは、お忙しかったのだと思いますが、その中学生達の姿に、黄色で止まる姿を見せてもらった気がしました。